令和2年度　分掌チャレンジ　年度末チェック

令和2年度				分　掌　名	教務部・生徒指導部・進路保健部・首席
学校経営計画				年度末チェック	
勉強がわかる喜びを伝える	「分かること」の楽しさを体験できる授業づくり	生徒が「分かった」と実感できる授業づくりに取り組み、学力の定着及び出席者の増加を図る。	生徒の学力に応じた教材を作成し、わかりやすい授業を行う。	ICT機器の活用だけでなく、各教科で生徒の資質・能力に応じた教材作成を行うなどの工夫も行っている。その結果もあってか、今年度の学校教育自己診断において、授業のわかりやすさについて保護者84%（昨年度比11%増）、生徒79%（昨年度比1%増）の肯定的回答を得られた。	
			ICTや視聴覚教材を用いた授業を数、質ともに充実させる。	1月25日時点で、のべ1272回のICT機器を使用した授業が行われた。今年度、2ケ月にわたる休校や、分散登校（6月）の期間があったことに鑑みても、高い水準といえよう。また、今年度はタブレット端末を新たに購入したので、有益な活用法があれば共有していきたい。	
			授業見学、研究授業等により、各教員が指導法の工夫・改善に取り組む。	9月と11月に定時制内の授業見学週間を設けた。また、1月には、全日制・定時制の枠組みを超えた授業見学が、首席を中心に企画され、のべ19件の見学があった。今後も、校内でできることに目を向け、授業力の向上を図っていきたい。	
			授業において、図書室の利用を促進する。	総合的な学習の時間および探究の時間を中心として、図書館を活用した授業が行われた。年々、生徒数が減少している状況の中で、利用者数は昨年度比150%増、貸出冊数は昨年度比134%増（いずれも6～12月平均）の結果を得られた。	
		全教員で授業規律について指導する意識を共有し、生徒が落ち着いて学習できる環境づくりに努める。昨年度に引き続き、授業中の携帯電話の指導を学校で統一して行う。		・携帯指導等、授業規律に対するマニュアル等を見直し、教員間で差が生まれないように、職員会議や新着任オリエンテーションを通して、再認識する機会を設けた。 ・現在、授業中の携帯指導による特別指導件数は、0件である。 ・学校教育自己診断（生徒）の「学校の授業中は、落ち着いて学習しやすい」の肯定率を8%向上させることができた。	
人に認められ人と理解しあえる喜びを伝える	基本的な倫理観や規範意識を育てる。	教科の学習およびHR・総合的な学習の時間等も含めた教育活動全体を通して指導する。		・現在、特別指導件数は10件と、例年に比べて非常に少ない件数であり、教員間で同じ基準と意識を持って注意・指導することで未然防止に努めることができた。 ・未成年の喫煙問題や成人の喫煙マナーについて、今年度以降も全教職員で指導、呼びかけをしていく。 ・学校教育自己診断（生徒）の「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある」の肯定率を7%向上させることができた。	
	人と関わる体験を通して、コミュニケーション能力の育成を図る。	挨拶ができる生徒を育てる。		・生徒の登校時には、門当番の教員だけでなく、多くの教員が門に立ち、積極的に挨拶と声かけを行っており、生徒が自主的に挨拶をしやすい環境作りができた。 ・学校教育自己診断（生徒）の「自分は、あいさつをしている」の肯定率を5%向上させることができなかった。（R2：1%増）	
		生徒会行事等を通して、遠足、修学旅行等に安心して参加できる環境を作り、仲間とともに行事に参加できる生徒を育てる。		・今年度の行事は、新型コロナウイルス感染拡大防止による制限が多くある中、生徒会の生徒たちを中心とした、主体的に様々な役割で参加、活躍できる行事とすることができた。 ・学校教育自己診断（生徒）の「体育祭、文化祭などの学校行事は楽しい」の肯定率を3%向上させることができなかった。（R2：2%減） ・行事の生徒参加率を体育祭、文化祭ともに50%以上を保つことができた。（R2 体育祭：59.7% 文化祭：59.7%）	
		各種行事において、保護者や地域住民および地域の中学校教員と積極的に連携・交流を図る。		・今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、体育祭は保護者を含めた招待者を見送る形となり、文化祭は保護者のみの入場規制をかけたうえでの招待となった。多くの制約があり、不完全燃焼ではあるが、良い連携・交流となったのではないかと思う。	
		ボランティア活動や部活動等を通し、学校に対する誇りと自己肯定感を育てる。		・今年度はボランティア清掃が雨天中止による非開催が続き、年間2回（年間4回予定）の開催となった。 ・今年度は活動内容や大会等が縮小・中止となる中で各部活動は工夫と協力をしながら活動できていた。 ・部活動加入率を3%増加させることができなかった。（R2：5%減）	
	生徒指導に際して、各教員が生徒との人間関係を最大限大切にしながら、家庭・中学校・地域との連携を密にして取り組む。			・教員と生徒、学校と家庭との意思疎通を図るために、指導や連絡を行う場合は、教員間できっちりと連携を取ったうえで、行動に移した。今後も生徒や保護者と積極的にコミュニケーションを取り、問題行動の未然防止・早期改善を教職員一同、心掛けていかなければならない。 ・学校教育自己診断（生徒）の「先生の指導については理解できる」の肯定率を3%向上させることができなかった。（R2：2%増） ・学校教育自己診断（保護者）の「学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている」の肯定率が85%を下回らないようにすることができた。（R2：93%）	
	フォローアップコーディネーターを中心に困難を抱える生徒への支援体制を整える。			(A)本校の在り方についての検討 ・新指導要領に合わせた本校のカリキュラムについて検討中である。 ・4年間の系統立った指導（育てたい生徒像）の方針づくりの準備をしている。 (B)支援を必要とする生徒への取組み ⇒生徒支援の具体的な方策の明示 ①個人カルテの作成が進んでいる。 ②要支援生徒に対して個別の教育支援計画・指導計画の後期分の作成を担任に依頼中である。 ③ケース会議を頻繁に行い、情報の共有と課題解決の方向性を協議している。 ④スクールソーシャルワーカーを活用し、地域のCSWと連携し、家庭の支援に繋ぐことができた。 ⑤障がいのある生徒の進路についてSSWとハローワークを訪問し相談を行っている。 ⑥必要な夜間介助員は起用することができた。学習支援員はコロナの影響で残念ながら人材が不足であった。 ⑦コグトレを活用したネヤトレを総合の講座として開校し、次年度に向けて発展させていく準備をしている。 (C)中途退学や長期欠席を予防する為の家庭との連携 ⇒毎月1回開催している教育相談委員会では各学年からの情報を共有し、SSW、SC、養護教諭も出席し様々なケースについて話合うことができた。 (D)職員研修 ⇒コグトレをテーマに9月15日に教職員研修をおこなった。 (E)1月末現在の中退率は5.5%である。	
夢や志を抱く喜びを伝える	進路指導の充実を図る。	進路に関する十分な情報を生徒に提供するとともに、保護者にもその情報が届くようにする。		今年度から「進路通信」を不定期に発行し、就職制度、入試制度の変更の通知に活用している。 また卒業学年対象の総合的な学習「就職セミナー」では早期から就職試験対策をし、今年度の特殊な就職状況の通知に努めた。 1月20日現在、大学4名、短期大学1名、専門学校9名の合格、学校紹介就職内定者数が14名、自己開拓就職が6名と、卒業予定者の60%程度の進路が決定しており、昨年度よりも早いペースで進路が決定している。	
		進路ガイダンス機能の充実を図るとともに、個々の生徒のニーズに合った進路指導をする。		11月実施予定の「秋の進路ガイダンス」では企業6社、専門学校4校に来校していただき、生徒の希望に応じた分野に分かれ、講演をしていただき、生徒からも好評であった。今年度から新たに導入されたキャリア・パスポートを有効活用し、生徒の希望に応じた進路の実現に役立てたい。	
		就業体験をする生徒を増やす。		就業率調査を1月20日に実施。就業者数は正社員、アルバイト、非正規社員すべて含めている。回答数が128名。 1年生は38名、2年生は20名、3年生は39名、4年生は31名が回答。 1年生は38名中11名が就業。就業率29%。 2年生は20名中8名が就業。就業率40%。 3年生は39名中23名が就業。就業率59%。 4年生は31名中22名が就業。就業率70%。 合計128名中64名が就業、就業率は50%であった。昨年度の1月の就業率が64%であったので、大幅に就業率が下がっている。飲食店が軒並みアルバイトの募集を停止していることが要因であると考えられる。	
組織の活性化と人材育成	校内組織の活性化	首席を中心に、経験年数の少ない教員の育成に取り組む		全定授業見学を実施し、のべ16名の先生方が授業見学に参加した。 若い先生方と協力し、教科の先生方の協力もあり、授業風景を盛り込んだ学校紹介動画を作成しyoutubeに配信した。 座談会を開催し、新着任の先生方と学校の現状について話合う機会を持った。	
	職務の効率化の取組み	時間外勤務を軽減させ、自身の健康について管理する。		業務の効率化を目的としてカラーコピー機を第3職員室に設置した。	
		コンプライアンスについて意識を高め徹底する。		コンプライアンスに関する周知を職員会議等を通じて行う予定。	
		危機管理意識・防災教育や保健・安全・衛生管理意識を高め、校内の体制づくりを取組む。		進路保健部を中心にコロナ対策を講じ、感染予防の周知を徹底した。	

令和2年度　分掌チャレンジ　年度末チェック

令和2年度	分　掌　名	教務部・生徒指導部・進路保健部・首席
学校経営計画	年度末チェック	